

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立第三中学校 第3学年、全生徒

実施生徒数（146人）

4. 調査の内容

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

- （ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- （イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- （ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問紙調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問紙調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

（2）学校質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・全体的に府の平均を下回っている。しかし「話す・聞く」の項目や「言葉の特徴・使い方」に関する項目などは府の平均に近付きつつある。

平均正答率（本校 53／泉佐野市 63／大阪府 68／全国 69.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
○2四 自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く (43.8/67.5)	・読書量の不足と読むことで得た知識が十分に生かすことができていない面がみられた。
○3一 レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する (35.6/54.3)	・読み手の立場にたってというよりは自分の考えが先に表現に表れているようである。
○4三 現代語で書かれた『竹取物語』のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く (23.3/50.0)	・古文にたいする「難しい」という先入観が先に出てしまい、問題に取り組めていない姿がみられる。

3. 学習状況調査より

質問項目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
読書は好きですか	40.6	66.0	○	25.4
国語の勉強は好きですか	41.3	61.4	○	20.1
国語の授業で学習したことは将来社会に出た時に役に立つと思いますか	88.9	88.7		0.2
国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか	54.5	77.2	○	22.7

○授業で紹介した文学者に興味を示し質問を重ねながら能動的に読書を楽しむ生徒も増えたように思うが、依然活字に対するアンチテーゼがみられる。

○班活動などで言葉を交わす機会は増やしているが、なかなか人前で話すのが苦手な子どもが多い。

○言葉のやり取りやコミュニケーションの難しさを克服していきたいと希望する姿がみられる。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数は、すべての問題において全国平均を大きく下回る。また分布状況全国と比べて、上位層は少なく、中間層から下位層にかけて多くなっている。
 - ・全体的に全国と比べて「記述式」の正答率が低いことが目立っている。
- また全体的に無回答率が高くなっている。

平均正答率（本校 35／泉佐野市 44／大阪府 50／全国 51.0）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学	特徴がみられた設問
<p>【数と式】 ○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する部分に課題がある。 6(2)-はじめの数にかけられる数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する (38.4/58.8)</p> <p>○結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することに課題がある。 6(3)はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する (19.9/40.9)</p> <p>【図形】 ○ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに 9(1)-2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する (13.7/32.1)</p> <p>【関数】 ○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる点に課題がある。 8(1)-晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く (30.8/57.5)</p>	<p>○事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる点に課題がある。 8(2)-二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ (47.9/61.7)</p> <p>○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる点に課題がある。 8(3)-グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する (23.3/42.8)</p> <p>【データの活用】 ○複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる点に課題がある。 7(2)-「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する (11.0/33.6)</p> <p>○累積度数の意味を理解しているかどうかをみる点に課題がある。 5-女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める (35.6/46.1)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は好きですか。	59.3	56.7		2.6
数学の勉強は大切だと思いますか。	85.5	85.0		0.5
数学の授業の内容はよく分かりますか。	80.6	73.3	◇	7.3
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	77.9	75.8		2.1

○数学を学ぶことの大切さは全国平均よりもかなり下回っている。

○数学に対する大切さを理解できていないこともあり、「数学の勉強が好きですか？」という質問に対しても全国平均から見ても低くなっている。

○数学に対して否定的な意見も多い中、授業に関しては意欲的に参加し、学習に向かうことができている。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（英語）

1. 全体の傾向

・平均正答数は全国・大阪府と比べて下回っており、分布状況を比べてみても上位層は少なく、中間層から下位層にかけて多くなっている。

・全国と比べると、『記述式』の問題が特に正答率が低く、また無解答率も非常に高い傾向にある。

平均正答率（本校 32／泉佐野市 43／大阪府 45／全国 45.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

英語	特徴がみられた設問
<p>【聞くこと】</p> <p>○情報を正確に聞き取ることに課題がある。 1 (2) 道案内における会話文の聞き取り (42.8/64.4)</p> <p>○情報を正確に聞き取ることに課題がある。 1 (3) 買物の場面における会話文の聞き取り (29.7/49.8)</p> <p>○日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることに課題がある 2 忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内の聞き取り (48.3/61.1)</p> <p>○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題である 3 バーベキューパーティーについての説明の聞き取り (27.6/41.2)</p> <p>【読むこと】</p> <p>○社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることに課題がある 8 (1) ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を読む (35.9/56.1)</p>	<p>【書くこと】</p> <p>○社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある 8 (2) ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く (9.7/19.5)</p> <p>○未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことに課題がある 9 (1) ①与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる (22.8/40.4)</p> <p>○疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことに課題がある 9 (1) ②与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる (10.3/20.9)</p> <p>○「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことに課題がある 9 (2) メールの英文を依頼する表現に書き換える (11.7/29.0)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
英語の授業は好きですか	56.5	51.9		4.6
英語の勉強は大切だと思いますか	84.8	88.0		3.2
英語の授業の内容はよく分かりますか	65.5	63.9		1.6
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.3	87.5		0.8
将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	37.9	30.0	◇	7.9

○全体的に英語に関する質問について、全国と比べても肯定的意見を持つ生徒が多い。

○英語の授業の内容はよく分かりますかの質問について、肯定的意見は多いが、なかなか点数に結びついていない。

○積極的に英語を活用しようと見れる生徒が多い。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【学校生活の様子】	学校に行くのは楽しいと感じている生徒や先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますかという質問には全国より高い数字が出ているが、人の意見を尊重することに課題が見られる。	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。 66.2 / 77.6
【家庭生活の様子】	本校の生徒は読書の習慣がある生徒は少ない。また、テストの問題文においても、長い文章を途中で読むのを諦めてしまう生徒や最初なかなか読もうとしない生徒も見られる。	読書は好きですか。 40.6 / 66.0
【家庭生活の様子】	地域の行事に参加している生徒の割合が低く、もっと学校と地域と連携しているんなことに取り組んでいくことが必要と感じる。	今住んでいる地域の行事に参加していますか。 20.0 / 38.0

本校の取組

◎これまでの取組

- ・今年度の目標を「聞く力」「話す力」に定め、各授業の中で班活動などの取り組みを進めている。また教員間で情報を共有するために教科部会の充実や各学期相互授業参観などの取り組みを進めている。
- ・担当者が参加した研修などで得た知識や方法などを教職員に周知し、授業の実践などに取り入れている。
- ・学期に一度生徒に授業アンケートを実施し、今の現状を先生方に周知し、数値の向上を図っていく。
- ・ICTの活用を積極的に進めていくために、校務でのICT活用や、授業の中での活用を進めていく。
- ・「班活動・ペアワーク」を充実させ、教え合い、助け合いを教室の中で高めていくために、授業の中で、班活動やペアワークを実践している。

◎これからの取組

- ・より充実した班活動やペアワークを実践していくために、講師に班活動での授業を依頼し、班活動・ペアワークの基本的なルールを定着させていく。
- ・班活動、ペアワークの研修を通して、より充実した班活動ペアワークをどの授業でも実践していく。
- ・ICTを校務のいろんなところで活用するために、試験的な運用を進めていく。
- ・朝学習や家庭学習をより充実させていくために、話を重ね、取り組んでいく。